



環境にイイこと、プラス。

環境負荷

ユニーが企業活動をしていく上で、店舗や本社・事務所の事業活動、また商品の輸送などにより、地球環境に影響を及ぼしています。これを環境負荷といいます。

環境負荷をできるだけ出さないように、そして継続的に軽減していくために、

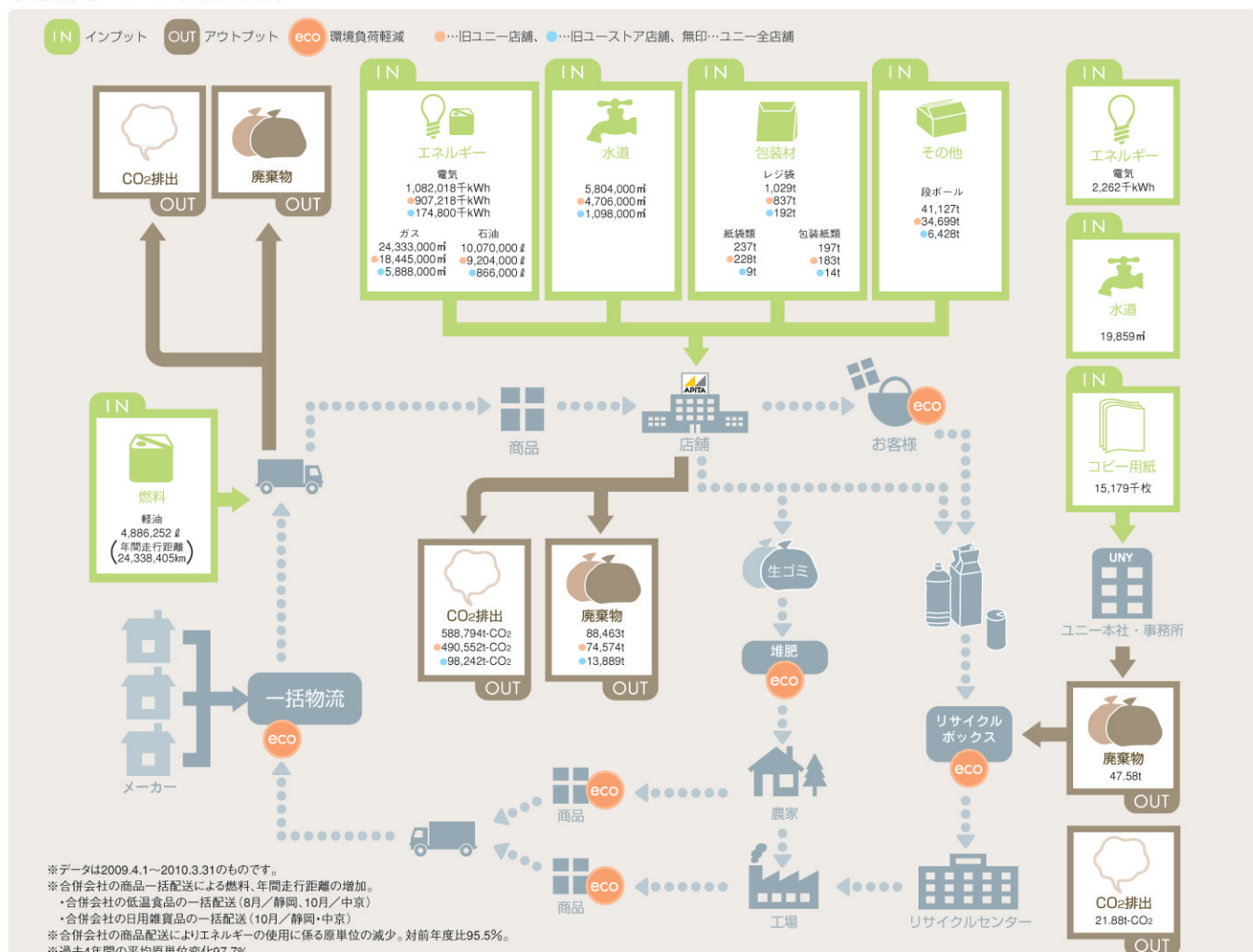
環境負荷の原因を調べ対策を考え行動することを、従業員や関係している人々が、それぞれの役割のなかで実践しています。

事業活動の環境に対する影響

ユニーの事業活動のなかで環境負荷の大きな原因は、店舗でのエネルギー使用です。店舗では、照明や空調・食品売り場の冷蔵冷凍庫などで電気やガスなどのエネルギーを使い営業をしています。また、商品の輸送にも燃料を使用し、商品を冷蔵冷凍保管する倉庫などでも多くのエネルギーを使用しています。これらのエネルギー使用にとともに、地球温暖化の原因といわれているCO₂なども排出しています。それ以外にも、店舗から排出する廃棄物やお客様が商品と一緒に持ち帰る容器包装も大きな環境負荷の原因になります。

ユニーでは、これらの原因を明らかにし環境負荷の低減に努め、エコ・ファースト企業として持続可能な社会を目指します。

事業活動における環境負荷



業務本部
システム物流部
物流担当
村井秀紀さん

ユニーの目指す持続可能な企業を実現するために、店舗だけではなく、商品を輸送する時にできるだけ燃料を使用しない、また商品を入れて運ぶ段ボールを使用しない、省エネ省資源のグリーン物流に取り組んでいます。2009年度は、3月に中京ドライ系DCセンター7センター(ユニー/加食2・酒類1・菓子2、ユースタ/加食2)を廃止、統廃合して2センター(ハイブリッド車・CNG車試験導入)を新設、菓子をTC(トランスファーセンター〈通過型物流センター〉)化しました。さらに、旧ユースタの物流を既設センターに統合(日用雑貨・低温食品)しました。昨年同様、エネルギー使用量・輸送量ともに前年度をオーバーしましたが、原単位(輸送量に対するエネルギー使用量)は前年比95.5%と効率化できました。また、中京エリア低温センターでチルド系標準クレート(食品通い箱)を導入しました。今期に入って静岡・山梨エリアへも拡大しました。さらに衣料系のオリコン物流も拡大に努めていきます。今後も大型車両・混載便による車両台数の低減等、環境に配慮した物流システム構築を推進していきます。



チルド系標準クレート